





クイズ。約千本のリンゴから、最終的に何本が選ばれるでしょうか。



リンゴの果実がきたら品質を調査し、形や味、病気への耐性などを調べ、良い果実がなる木を選びます。

7〜8年後

「ぐんま名月」は開発から約50年。原木は今もこのセンターで元気に成長しています。



沼田の美味しいリンゴを
味わってくださいね







選んだリンゴの枝を土台となる木に接ぎ木して育て、生産現場で生かせると判断できたら品種にします。



接ぎ木

他には「新世界」や「スリムレッド」が生まれました。



クイズ第2弾。ぐんま名月は



全国的に栽培が広がった「ぐんま名月」は1番人気。できの良い年は蜜が多く、皮の近くまでびっしり入っています。温暖化で色が付きづらくなっている品種も多い中、「紅鶴」は着色が良く味も抜群で、群馬の気候や時代に合ったリンゴです。リンゴ生産者が取り組みを紹介する「全国りんご研究大会」では、「紅鶴」の栽培について事例を発表しました。思い入れもあり、中生品種として定着させたいと考えています。

収穫直後の新鮮なリンゴを味わってもらうと、リンゴ狩りと呼びかけています。お気に入りには小ぶりですが薄く、丸かじりにぴったり「スリムレッド」。パリパリした食感で、やや酸味のある濃厚な味わいを楽しめます。

大学卒業後に都内で就職。家業を継ぐために26歳で地元に戻りました。温暖化や災害に対応できる栽培や品種の研究、機械を導入した作業の効率化などを模索し、沼田のリンゴを楽しんでもらえるように力を入れていきます。



「紅鶴」栽培事例を発表
色づき良く、定着図る

りんごの家 山口果樹園
山口浩輝さん - 白沢町下古語父 -